

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2026年 第24週（6月8日～6月14日）

今週のコメント

～手足口病～ 手洗いの励行と排泄物の適切な処理が重要

定点把握感染症

「手足口病 増加」

第24週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は2,174例であり、前週比7.9%増であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、手足口病、咽頭結膜熱、水痘の順で、定点あたり報告数はそれぞれ5.38、2.69、1.34、0.86、0.49である。

感染性胃腸炎の報告数は前週比3%減の973例で、南河内8.80、北河内7.86、大阪市南部5.76、中河内5.74、豊能5.55であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は12%増の487例で、北河内5.18、中河内4.68、南河内2.87である。

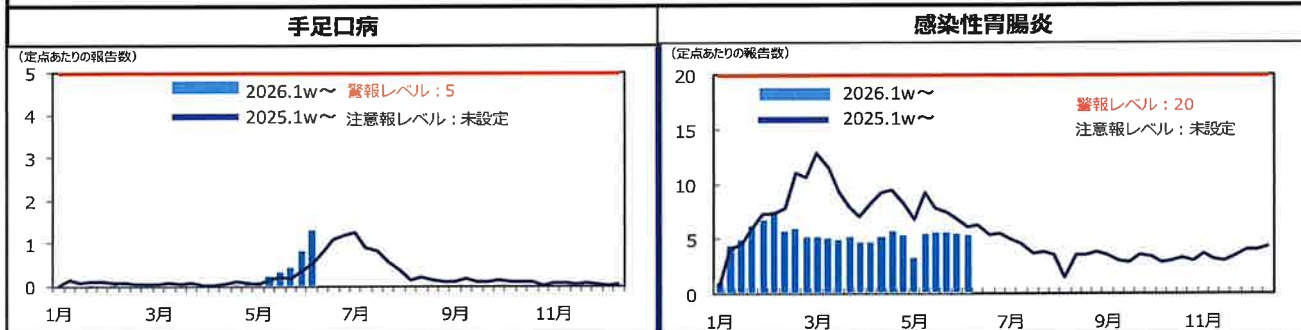
手足口病は59%増の242例で、南河内2.60、北河内2.45、大阪市北部2.38であった。前週に比べ、7ブロックで増加した。

咽頭結膜熱は20%減の155例で、中河内2.42、南河内1.47、北河内1.27である。

水痘は89%増の89例で、中河内1.79、大阪市西部1.00、北河内0.68であった。

新型コロナウイルス感染症は51%増の163例で、定点あたり報告数は0.57である。中河内1.34、北河内1.08、三島0.56、泉州0.55、大阪市南部0.50であった。

急性呼吸器感染症（ARI）は9%増の9,564例で、定点あたり報告数は33.56である。南河内45.87、北河内44.25、中河内42.69、大阪市北部36.10、豊能32.78であった。



※2025年第15週以降、定点医療機関数の変動により、警報レベル・注意報レベルの数値は参考値

表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2026年 第24週6月8日～6月14日）

第24週の順位	第23週の順位	感染症	2026年 第24週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2025年 第24週の 定点あたり 報告数	2026年第24週の 年齢別 患者発生数 最大割合
1	1	感染性胃腸炎	5.38	3%減	6.11	1歳_18%
2	2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.69	12%増	1.98	10-14歳_15%
3	4	手足口病	1.34	59%増	0.53	1歳_53%
4	3	咽頭結膜熱	0.86	20%減	0.98	1歳_41%
5	8	水痘	0.49	89%増	0.29	7歳_17%
参考		新型コロナウイルス感染症 (急性呼吸器感染症定点報告疾患)	0.57	51%増	1.08	10-19歳_37%
参考		急性呼吸器感染症 (急性呼吸器感染症定点報告疾患)	33.56	9%増	38.19	1-4歳_45%

各疾患の詳細は、大阪府感染症情報センターホームページ（定点把握疾患、疾患別情報、病原体検出情報）をご覧ください。

第24週のコメント

～エムボックス～ 大阪府では2023年は22例、2024年が0例、2025年は2例が報告された



表2. 大阪府全数報告数（2026年 第24週6月8日～6月14日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ【週報】> 全数把握疾患 をご覧ください。）

	疾患名 ()内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	府内市町村							府内累積報告数	
			豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州		大阪市
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	2	1	1							39
4類感染症	E型肝炎	1								1	4
	エムボックス	1								1	1
	レジオネラ症（肺炎型）	5	2		1					2	56
5類感染症	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1		1							40
	後天性免疫不全症候群	1								1	32
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1		1							26
	侵襲性肺炎球菌感染症	3	1			1				1	142
	梅毒	22	3		1	3	1		2	12	583
	百日咳	1								1	159
結核 (2026年4月分)	結核 新登録患者数：36名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 21名) (府内累積報告数 290名、内 肺・喀痰塗抹陽性 93名)										

(2026年6月16日 集計分)